

2021年6月22日

佐賀県知事 山口 祥義 様

住 所	東京都品川区上大崎2丁目12番2号 ミズホビル7階
団 体 名	特定非営利活動法人 難民を助ける会
代表者職・氏名	理事長 志邨 有紀枝

佐賀県ふるさと寄附金「NPO等を指定した支援」による  
寄附金活用実績報告書

令和3（2021）年2月8日付け県協第2065号により寄附金交付決定通知のあった佐賀県ふるさと寄附金「NPO等を指定した支援」を活用して下記のとおり事業を実施したので、佐賀県ふるさと寄附金（「県民協働の地域づくり」及び「NPO等を指定した支援」）による寄附金交付要綱の規定により、関係書類を添えて報告します。

記

- 1 活用実績報告書（様式第6号 別紙1）
- 2 収支決算書（様式第6号 別紙2）

## 令和2年度寄附金活用実績報告書

事業名	国際理解教育事業および国内外の支援事業
寄附受入額	3,100,000円
事業内容（いつ、どこで、誰が、何を、どのように実施したのかについて記載）	
<b>1. 出前講座および講演</b>	
• 2020年4月29日 大室和也（佐賀事務所所長）が JICA 海外協力隊広報番組「Jump to the World」（えびすFM）に出演し、難民問題について解説した。	
• 2020年7月5日 佐賀市内の映画館シアターシエマにて大室和也（佐賀事務所所長）、ラガド・アドリー（東京本部職員）、吉川剛史（トルコ事務所駐在員）がシリア紛争および難民の現状について講演した。参加者20人が来場し、ラガドと吉川はそれぞれオンラインで出演した。	
• 2020年8月3日 龍谷高等学校にて大室和也（佐賀事務所所長）が難民について出前講座を行った。全校生徒約600人を対象に、オンラインにて実施した。	
• 2020年8月7日 佐賀女子短期大学にて大室和也（佐賀事務所所長）がイスラム教について出前講座を行った。講座の様子をビデオに撮影し後日学生に配信する形式をとった。佐賀県国際交流協会の国際協力理解出前講座事業の一環で行った。	
• 2020年9月16日 大室和也（佐賀事務所所長）が JICA 海外協力隊広報番組「Jump to the World」（えびすFM）に出演し、グローバル・イシューについて解説した。	
• 2020年9月19日 唐津市立第一中学校にて2年生、3年生を対象に大室和也（佐賀事務所所長）が難民支援について出前講座を行った（佐賀県教育振興課グローバル人材育成講師派遣事業）。	
• 2020年10月17日 佐賀市内のカフェ リフトコーヒーにて駒橋冨季（ケニア事務所駐在）が難民について講演した。15人が参加した。難民の状況について質疑応答を行った。	
• 2020年10月20日 佐賀県ユニセフ協会にて駒橋冨季（ケニア事務所駐在）が、ケニアのカクマ難民キャンプの現状と支援活動について出前講座を行った。	
• 2020年10月30日 北里大学にて大室和也（佐賀事務所所長）が出前講座をオンラインで行った。	
• 2020年11月15日 JICA 協力隊ナビの一環で、佐賀県国際交流プラザにて大室和也（佐賀事務所所長）がシリア紛争について講演した。15人が参加した。	
• 2020年11月30日、12月3日 佐賀市看護専門学校にて大室和也（佐賀事務所所長）が、災害看護・国際看護の授業の一コマとして	

難民について出前講座を行った。

- ・2021年2月下旬

小城市立三日月小学校にて大室和也（佐賀事務所所長）が出前講座を行った。5年生124人を対象に、難民問題について理解を深める時間を設けた。

## 2. イベント出展による国際理解の場づくり

- ・2020年10月4日

王仁博士顕彰公園（神崎市）にて国際フェスタメインイベント（公益財団法人佐賀県国際交流協会主催）に出展した。「地雷探しゲーム」を用いて地雷問題について理解する場を設けた。

- ・2020年10月18日

国際フェスタ（公益財団法人佐賀県国際交流協会主催）の一環で、市民活動プラザ1階廊下にてパネル展示を実施した。

- ・2020年11月21日

さがんなかまつり（佐賀市市民活動プラザ主催）に出展し、地雷問題について掲示し参加者に解説した。

- ・2021年1月10日～2月22日

佐賀市内カフェ Aruk カフェにて、新型コロナウイルス感染予防啓発ポスター展を開催した。10点のポスターを掲示した。なお、ポスターは、新型コロナウイルス感染予防をテーマに世界中から募集した作品である。

## 3. 国内外における緊急人道支援および開発事業

国内外の新型コロナウイルス対策のための支援活動の調整業務を行った。特に、令和2年7月豪雨の被災者支援のため、被災した幼稚園や障がいのある人が利用する施設に対し衛生用品等の物資を提供するとともに、佐賀にある災害支援団体に対し大型扇風機等を提供した。

### 事業実施の成果・効果（見込み）

- ① 国際社会の諸課題（紛争、難民、地雷、感染症対策、水・衛生環境、災害被災者支援等）について、児童や生徒等計1,352人を対象に、現状と課題を理解し考える機会を設けた。物事をグローバルに捉え、多文化共生社会の担い手として意識を向上させることに貢献できた。
- ② 国内外での支援活動により、新型コロナウイルスのために困窮している人たちの生活改善や、国内外の被災者、障がいのある人、また海外の難民等の生活環境改善について、AAR Japan 佐賀事務所からも貢献した。

(様式第6号 別紙2)

収 支 決 算 書

事業名		国際理解教育事業および国内外の支援事業	
区 分		決算額 (円)	備 考
収 入	佐賀県ふるさと寄附金	3,100,000	第1回交付：3,100,000円
		収入計	3,100,000
支 出	謝金	0	
	旅費	64,472	
	印刷製本費	42,637	
	消耗品費	5,181	
	使用料・賃借料	1,513,646	
	人件費	273,129	
	返礼品等の調達に係る費用	665,204	
	返礼品等の送付に係る費用	86,581	
	広報に係る費用	348,350	
	事務に係る費用	100,800	
		支出計	3,100,000

○支出区分は、謝金、旅費、印刷製本費、消耗品費、使用料等に分けて記載してください。

経理上の区分名で記載して構いません。

○領収書等は事業終了後5年間保存してください。